

## 生徒の困り感と背景を捉え学力向上と進路実現のサポートに繋げる

林（市川） 歩美（三重県立神戸高等学校）

### 1. はじめに

文部科学省の令和 2 年度の調査結果によると、小・中学校における不登校児童生徒数は、1,000 人あたりに 20.5 人。8 年連続で増加しており、過去最多となっている。高等学校においての不登校率は 1,000 人あたり全国平均 13.9 人。前年度よりは下がったものの、全国で 43,051 人が不登校の状態である。私が最初に担任したクラスは、不登校・不登校予備軍である年間 30 日以上欠席数をもつ生徒が 5 名在籍する 33 名の 2 年生のクラスであった。このクラスで学んだことや感じた多くのことは、私の教師としての原点となっており、その感謝の気持ちと、学び得た内容を文章化させていただきたく思い、今回の執筆に至っている。

私は現在、公立高校教員として 9 年目を迎える。うち、6 年は担任を務めた。いわゆる教育困難校、進学校ともに各学年の担任を 1 年ずつ行ってきたが、毎年 4 月の目標に「全員進級」もしくは「全員卒業」を掲げても「全員」進級が叶ったのはたった 1 年である。家庭訪問を繰り返したり、児童相談所に資料を持ってお願いにあがったり、時には「先生の枠を超えていることをしていないか」と思われるような対応をすることもあったが、進級が叶わず、転学や退学に繋がった生徒が 1 名は出る結果となった。

不登校となる理由で同じだった生徒は一人もいなかった。そして、一概に「家庭の問題」「交友関係」と括ることのできる理由ではないと感じる。しかし、不登校が実は大きな成長に繋がるチャンスでもあった。不登校となった原因の原因まで辿ることで、彼らは自分の将来に自信をもって歩んでいける。そう信じて、生徒の抱える困り感に、あらゆる面からアプローチを行ってきた。

現在、ICT 教育の促進が随分進み、生徒の学習形態に選択肢と可能性が広がった。新しい「学習法」に対して、教員としてワクワクを感じつつも「自己満足にならないよう」「形骸化しないよう」そして何よりも「生徒を置いてきぼりにしないよう」留意して試していきたいと感じている。学習法の多様化によって、生徒の困り感を解決する手段が増えたことには間違いない。一方で、新しいものが、常に既存の問題の解決に繋がるかは別である。今回は、教員の原点となった白山高等学校において、新任してから 6 年間、体当たりで挑んだ研究と学びについて報告をしたい。

### 2. 学校の実態（2013 年～2018 年）

## ①学校の概要

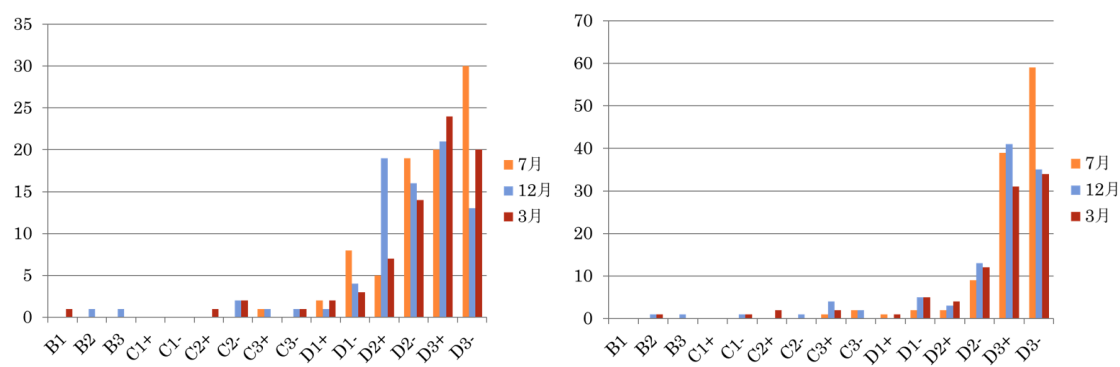
白山高等学校とは、津市にある全校生徒は約 300 人、1 学年 3 クラスの小規模校である。普通科と情報コミュニケーション科が存在し、地元生徒は約 2 割。2013 年当時、学力的にあるいは経済的に厳しい生徒、特別な支援を必要とする生徒が多かった。問題行動による指導件数も多く、生徒指導委員会の開催件数は、この年、39 回に上った。着任当初、学校の様子は非常に困難を極めている状況であった。しかし、校内体制を徐々に生徒にとって適切な環境に整えていったことで、生徒指導案件は大幅に減少。部活動加入率は 2013 年当時 10% 程度であったが、様々な教員の働きかけもあり増加の一途を辿り、2018 年には 84% まで上昇した。また、この年、硬式野球部が甲子園出場を果たした。

## ②生徒への対応の考察

私が担任や授業等の学校生活を通して、何度も認識したことは、生徒の背景を捉えたいうで接しなければいけないということだ。実際に、家庭訪問や面談するまで、想像しえない負担や過去を背負っていることが多々ある。こういった生徒各々に対して、教師は個別で、あるいは一斉に対応をしていくこととなる。こちらの態度 1 つで生徒は心を開きも閉ざしもする。指示 1 つで信頼を得ることも失うこともある。声掛け 1 つで明日学校に来ることもあれば来ないこともある。困り感をもつ生徒に気付くこと、見て見ぬふりをせず原因を知ろうとすること、そこから学力向上と進路実現、ひいては幸せな人生に繋がると痛感している。

## ③基礎力診断テストより生徒の学力

1年目の2013年度・基礎力診断テスト(2学年) 2年目の2014年度・基礎力診断テスト(1学年)



これは赴任当時 1, 2 年生に行っていた基礎力診断テストの 7, 12, 3 月の結果である。1 年目は 2 学年を、2 年目は 1 学年を主に担当した。横軸の B1 から D3- は「GTZ」学習到達ゾーンと言われるベネッセの学力テストにおける共通の指標である。1 年目の 2 学年においては、7 月において最高 C3+ 残りは D ゾーンで、D3- が最多の 30 名であったが、12 月に D2+ が 5 人から 19 人へ、D3- が 30 人から 13 人へ変化、3 月には B1 の生徒も現れるようになってきた。

2年目の1学年においても、7月において最高はC3+、そしてD3が98人(+が39人、-が59人)から、12月にD3の人数が76人、3月に65人と減少傾向にある。上位層のB、Cゾーンも徐々に増加している。学力を少しずつ上げていく背景には、授業時間内の一部として学び直しが行われていること、また授業を行う環境整備があったことが考えられる。生徒の困り感へのアプローチとして、授業について報告したい。

### 3. 授業における困り感とアプローチ

#### ①授業に、クラスに、学校に、肯定的ノームを創り出す

授業に入る前には、まず環境から整える。規範(norm)とは、組織において暗黙のうちに了解されているルールのこと。(木下晴弘) 組織はノームによって動いている。ノームは些細なことから発生し、良くも悪くも成長する。例えば、授業において、「始業時は服装を正して、挨拶をきちんと行う」と決めたにも関わらず、1度でもいい加減な挨拶を許せば、「あの授業はこの程度の挨拶でもいいんだ」というノームができてしまう。悪いノームの成長は速いため、時間がかかっても、「決めたことはきちんと行う」を徹底した。服装を正し、挨拶を行うこと。プリントはファイルに綴じること。人の「わからない」を馬鹿にしないこと。また、決めるだけではなく、こちら側の机間巡視と声掛けは必須である。机間巡視と声掛けは承認行為の1つであると考えている。生徒に対し、ポジティブな声掛けを行う。褒める。書くスピードが遅くても、「丁寧に書いているね。」と言ったうえで「もう少しスピードアップお願いします!」と明るく声を掛ける。こうした積み重ねにより、数学への抵抗感を減らしていく。

そもそも数学に限らず、苦手だと感じる教科において生徒は、どこかで「ついていけなくなる」経験をしている。私は彼らとの授業を通して、一方的に生徒に要求することは、授業を完璧にやり切りたい自身の自己満足かもしれないと考えようになった。もちろん、生徒自身が成長するためにスピードを上げること、計算等のルールを正しく覚えて使うこと等は必要であるし、そういった声掛けもする。しかし、トップダウンではなく、応援する気持ちで伝えれば、それは必ず生徒にも伝わる。また、復習を徹底した授業では、わからない苛立ちよりも、一度は理解したことがあるのに解けなかった悔しさの方が上回り、結果的に学力的にも精神的にも成長を感じることができた。

授業に+αの配慮として、「行動は1つ1つ」「説明と板書を同時に行わない」「話すスピードはゆっくり、時には繰り返す」といった“伝え方”を意識している。これは赴任1ヶ月以内に教えていただいたことである。こうしたことを教師側が生徒の成長を楽しんで行う。何度も生徒の顔や取組状況を見ることで、些細な成長が見て取れるはずである。それが積み重なって彼らの自信に繋がっていく。授業に肯定的な雰囲気を作ることで、「数学、嫌いじゃないわ」と感じてもらえたら、それだけでガッツポーズである。

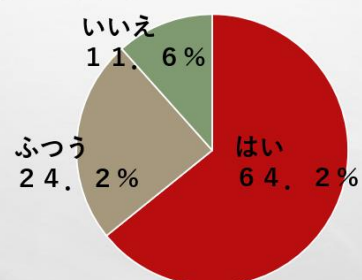
#### ②生徒の数学における困り感

数学は苦手とされやすい

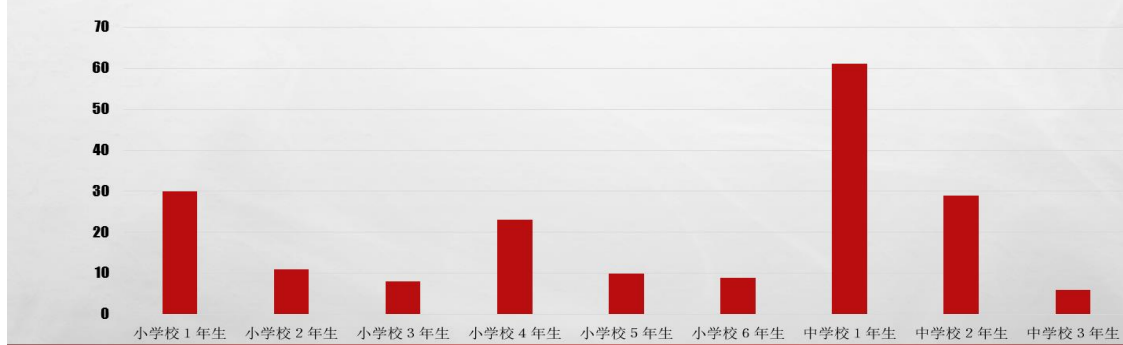
教科であるが、その苦手を掘り下げて生徒の困り感はいつ・どこで始まったものかを、全校生徒に協力して教えてもらった。(2018)

高校入学以前から、数学に苦手意識をもっていた生徒は全体の 6 割以上である。さらに「苦手」と答えた生徒に対して、さらに「いつ苦手と感じるようになったか」を質問した。

● 中学まで、数学は苦手でしたか？

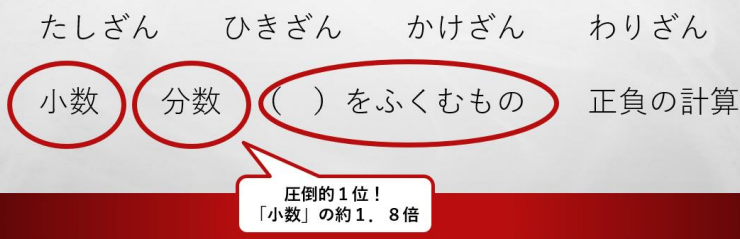


● 「はい」と答えた生徒は いつ苦手だと思ようになりましたか？



最も苦手時期として多かったのは中学 1 年生である。この時期登場するのは「負の数」「文字式」である。また、小学 4 年生においても「苦手」と答える割合がやや多いが、ここで登場するのは「分数」「小数」である。

● 苦手を感じる計算問題はどれですか。最大 3 つまで選べます。



続いて、小学校から中学校までの計算に関する苦手意識を調査すると、「分数」が圧倒的に多く、「小数」の 1.8 倍であった。

高校に入ってから数学では、当然難しくなるばかりである。ここで、学び直しを怠れば、数学の時間は彼らにとってつまらない時間になってしまう。学校へ来るモチベ

ーションの低下、基礎学力が身に付かないことから起こる進路不安と、「数学の授業」から引き起こされる影響、特に損害は大きい。

生徒が感じていると思われる授業における困り感は、以下の要素から起きている。

- (1) 目の前の「わからない」を解決しなければ、前に進むことができない。
- (2) コミュニケーション上の課題がある。生徒が先生に質問をしにくい。わからなくても、聞く勇気がない。わからないことの説明が難しい。わからないことがわからない。
- (3) 「書く」「聴く」「話す」の基本的な動作が遅い、または困難である。同時進行で2つ以上の動作をすることが難しい。
- (4) 中学校以前の学力が定着していない。
- (5) 授業に集中できない。

ここから私が感じた教員側のこれらの課題に対する意識は「生活指導は授業、授業は生活指導」であるということだ。つまり私は、授業では、学力だけでなく“生きる力”を育むキャリア教育の要素を備えていると感じた。また、私は着任当初、こんなアドバイスを受けた。「信頼は授業から」。生徒は授業がわかる先生に親しみをもち、素直になり、その延長線上で悩みを打ち明けることもある。授業を通して信頼関係を作ること、生徒が困ったときに相談できる存在になる可能性も秘めている。以上のことから、生徒の困り感に対応できる授業研究を行い続けた。その結果を③④で報告したい。

### ③授業構成

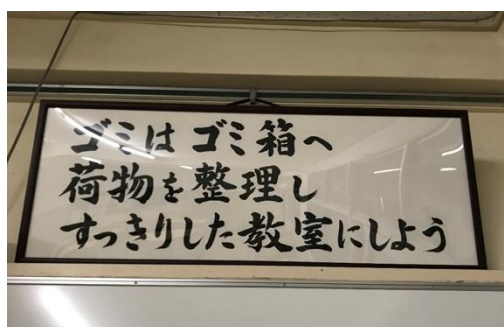
50分授業のうち、基本的な授業構成は以下である。メリハリをつけた授業構成にし、これを習慣化することで、集中を50分継続させることができる。詳細は後述する。

- ・13分 計算練習 小学校・中学校で学習した基本的な計算問題をベネッセ発行の「進路マップ マナトレ」を用いて行う。
- ・2分 プリント返却や授業に切り替える準備。
- ・20分 新しい授業内容と、その類題を行う。○つけ法の活用。
- ・15分 プリント演習 既習の内容8割、今回の内容2割のプリントでグループによる演習を行う。終われば提出もしくは押印、終わらなければ宿題とするが、大多数が終わる分量としてある。

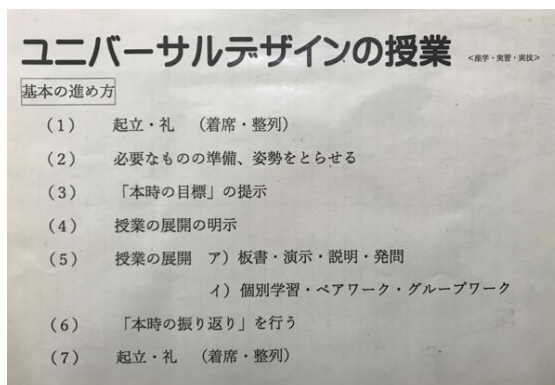
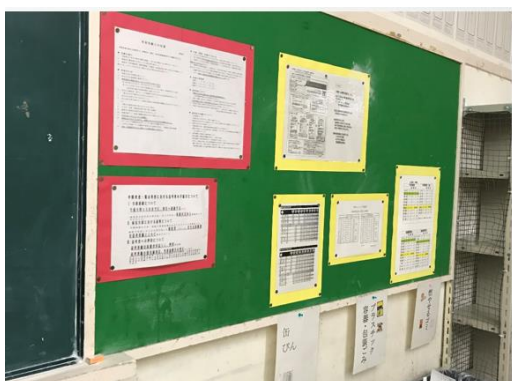
### ④授業実践

#### (1) クラスの環境

教室づくりは、授業づくりにも繋がる。各教室で、先生で、個性があることは非常に面白いのだが、授業における「ルール」や、ごみ箱の設置場所など、ある程度統一感を持つこととした。これは、生徒の動揺を抑え、

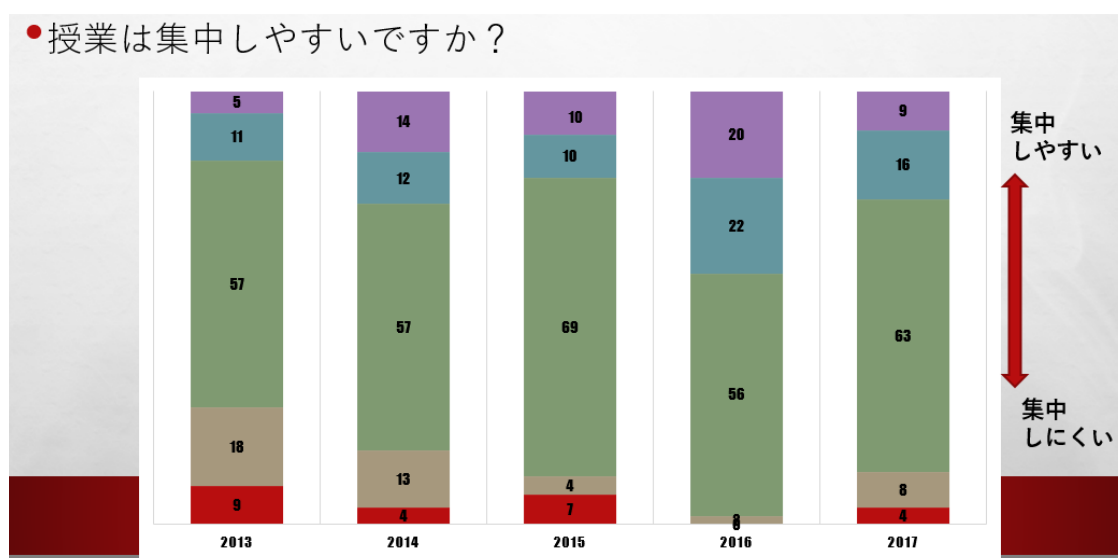


集中力を保つ目的がある。学校全体で、教室の環境を整えた。



全教室の入り口に、美化や整理整頓を呼びかける看板を設置した。掲示物は、重要度で赤色と黄色に分けて貼るなど、色によって違いを出し、掲示板もスッキリさせた。「ユニバーサルデザインの授業」は、授業を始める際のルールについて記載されており、各クラスの教卓に常に配置し、いつでも教師が意識できるようにした。

こういった環境整備のおかげで、2013～2017年のアンケートによれば、生徒自身も授業に集中できると感じる割合は増えているようである。



## (2) 少人数教育の中で、生徒の実力や進捗を把握する

・授業中は生徒の方向を向く。

新しい授業内容では、生徒とのコミュニケーションを図りながら進める。納得をすることで、学習の内容が頭に入るからだ。生徒間や、教師と生徒間のコミュニケーションにおいて様々な“問”の返答から、生徒の理解度を探る。復習が必要であれば、短時間でもその内容を確認する。短い復習を積み重ねることで、記憶は定着していく。

また、私自身が生徒の声を聞いて疑問点や説明不足に気付くことも多い。「学級の機能を個人の単なる総和と捉えない。思考を進める際にも、個人は単に『個人』ではあり得ない」（東京学芸大学 藤井斉亮）対話をしながら学ぶことの良さは、視野が広がること、学習の機会が広がることにある。ある生徒の発する疑問点が、他の生徒の疑問点と重なることもある。疑問点を言い出せなかった生徒が、こういった自分以外の生徒間や教師と生徒間のコミュニケーションを聞くことによって、救われることもあると実感している。

- ・ ○つけ法

“子どもが解決したことを記述したことに対して一人ひとりに対して赤ペンで○をつけていく方法”を「○つけ法」と言う。（愛知教育大学 志水廣）この○つけ法は、問題を解き終わった頃に教員がすぐ○をつけにクラス全体を回るため、生徒に対してつまりきの即時指導が可能である。また、間違っているところまで○をつけるため、○の積み重ねが次第に自信に繋がる。この○つけ法は、授業の中で毎回1問取り入れた。

- ・ 演習時間の確保

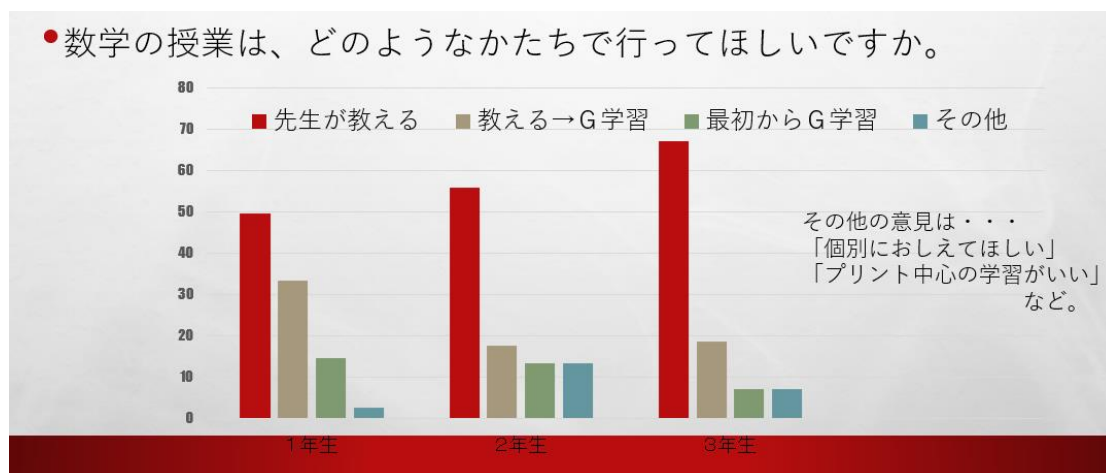
こまめなアウトプットで定着を図った。演習は主に2種類行った。これまでの復習と最新の内容が盛り込まれた「毎時間のプリント演習」と、単元ごとの「1時限演習」だ。数学は既習知識を使ってドンドン問題を解いていくため、演習時間を確保することで既習内容の定着を促した。この時間は、欠席した生徒が、授業内容に追いつく時間にもなる一方で、早く解けた生徒にはハンコが押され、解答の裏面にあるクイズプリントが解ける楽しみがある。解いている最中は、机間巡視等で生徒の理解度を確認することができる。

- ・ グループで学習を行う

生徒に、希望の授業方法について調査すると、多くの生徒が慣れたかたちの「一斉授業」と答える一方で、「グループ学習」を一部または全部取り入れたいとの声も上がっていた。

そこで、数学の技能を身に付ける他にも、社交性を高める効果も期待されたため、グループ学習を段階的に取り入れていくことを検討した。





グループ学習を行うには、基礎知識の定着とグループでの相談に慣れることが必要だと感じた。間違った方法を教えたり、誰かが傷つく発言を安易にできてしまったりすることを懸念したからだ。そこで、授業の形態に慣れてきた秋頃から、グループ学習を始めた。最初は LHR でグループになって話し合いや作業を試してみて、その後数学の授業において「1 時限演習」、最終的には「毎時限のプリント演習」時にグループ学習を取り入れた。

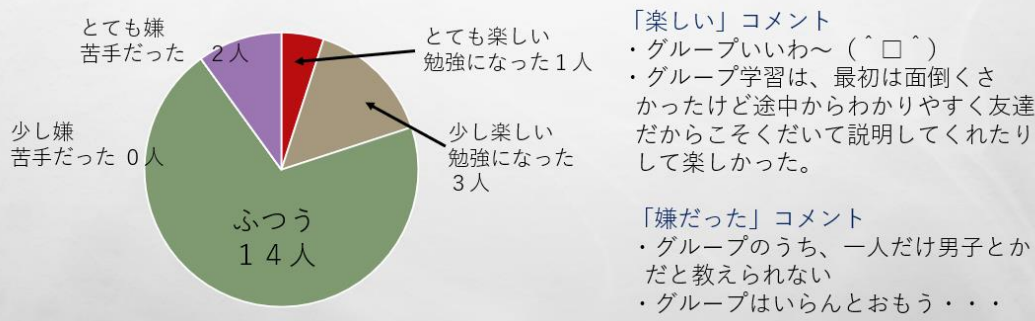


実際、グループでの演習を積極的に取り入れた 3 学年のクラスにアンケートを取ったところ、「楽しい」「嫌だった」両方の意見が得られた。



## 2017年度のアナケートより

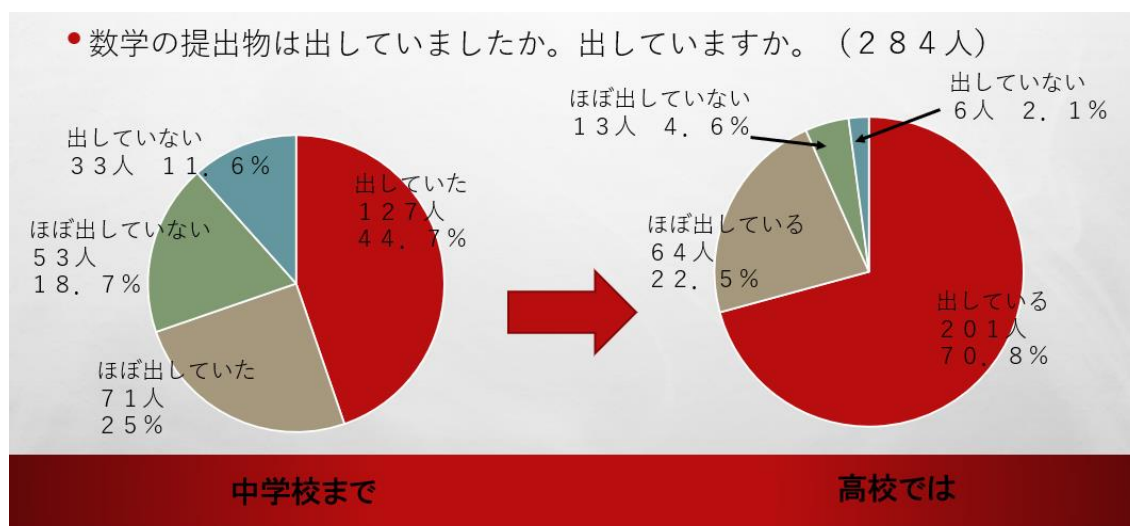
### ・グループでの問題演習はどうでしたか。(20人)



個別学習とグループ学習は、クラスの雰囲気や問題の難易度に応じて、適宜使い分けることとした。その結果、生徒から「もっと難しい数学を学びたい」「進学に数学を使いたい」という声上がり、長期休業中も2日に1回課外を実施したり、「宿題を出してほしい」「もっと同じプリントをやりたい」という生徒にオリジナル復習プリントを作成したりするなど、生徒の貪欲な知識欲に対応することができた。

### ⑤提出物の管理で書類整理の習慣づけを行う

書類の管理や整理整頓は社会人になってから必要なスキルであり、その習慣づけは生きる力の育成に繋がると考えている。授業では、生徒の実力に応じたオリジナル教材を作成したいため、プリントの使用が増えた。そこで、毎回ファイルにプリントをきちんと綴じる時間を確保した。たったそれだけの決まった行為の積み重ねは、着実に生徒の自信を積み上げていたことを後から体感した。実際に、どの学年の生徒も毎年「こんなにファイルが分厚くなったのは初めて」「もっと厚くしたい」という声を聞いている。



これは、中学校までと高校での数学の提出物の提出率を調査したものである。中学校までの「出している」「ほぼ出している」と答えた生徒は約 69%であるのに対し、高校に入ってから約 92%が「出している」「ほぼ出している」と答えた。このように、プリントの管理は、学力の定着にも貢献していると考えられる。

#### 4. クラス運営からのアプローチ

生徒が授業や学校行事を通して、人間的に成長していくことの先には、就職や進学等、次のステージが待っている。クラスは、人間関係を学び、構築していく場所である。クラス運営は、授業を行う環境作り、キャリア教育にも関連している。「生徒とのコミュニケーションのあり方や授業そのものを、キャリア教育の観点から再構築する必要がある」(鈴木建生)「日常的キャリア教育」の1つとして行ったクラス運営について報告したい。なお、倫理的配慮として当該生徒には記載についての確認を行った。また個人が特定されない等の配慮を行っている。

##### ①早期の個人面談と家庭訪問を行うこと

面談の重要性は今更改めて記すことではないかもしれないが、私が1回目の面談で意識しているのは「傾聴」である。傾聴とは、「判断を脇に置いて、相手の言葉を、さらにはそれを口にして相手の存在をしっかりと受け取ること」(小山英樹)最初は信頼づくりのために始めた面談が、私の考えるより遥かに大きい、そして深刻な悩みを聞く機会となっていた。

##### 【生徒事例1】 場面寡黙の生徒A

中には、話すことが得意でない生徒もいる。私は無理に話をさせて聞くことが傾聴に繋がると考えていない。Aは2年間担任したが、私が声を聴いたのは10回あるかどうか分からないといった生徒だ。首を振ることはできるため、コミュニケーションは取れる。表情はほとんど変わらない。家庭訪問では、保護者より「なぜAは昼食を食べないのか」と真っ先に質問をされた。家族ともコミュニケーションが取りづらい様子であった。

しかし、私はAの考えていることや、今感じていることが、Aの発するわずかな動作や表情により、何となくわかるようになった。話さないこと、無表情なことは、意志や感情がないというわけではない。どうやって表現すれば良いのか、A自身もわからないように思えた。

Aは移動のときに教室の電気を消したり、進んで掃除を行ったりと、もともと行動力のある生徒だった。それを見ていた生徒が、私に報告してくれた。日常的にあるいは面談時に、感謝の気持ちを細目に声をかけるようにしていた。そこから月に1回程度、本当に徐々にではあるが、声を聞くことができるようになってきた。最後の文化祭で

は、クラスメートと協力して出店のキッチンを務めるなど、当初は考えられないほど積極的に行動を行うことができた。Aに促したから話すことができるようになったわけではない。存在を受け取ることで話すことができるようになったと考えている。これも、1つの傾聴だと考える。

家庭訪問で得ること、感じることの多さは計り知れない。また、保護者からも相談してもらえる距離感を作ることはとても大切である。

### 【生徒事例2】 家で“ON”の生徒B

学校でムードメーカーのBは、友人にいつも囲まれる天真爛漫の生徒である。とある感想文で、自分がLGBTに該当することを打ち明けてくれた。ありのままの自分を生き生きと過ごすBは「学校がとても楽しい」と話しており、特に困っている様子はなかった。個人面談では「弟と父の喧嘩を止めることが大変」と少し顔を曇らせて話していた。後日、家庭訪問に行くと、父親がパソコンで作業しながら対応してくれた。Bは、明らかに学校での態度と違う様子であった。話し方や表情から、非常に怯えている様子であった。父親に対しては常に敬語で話をしていた。気持ちの切り替えを学校でOFF、家でONにしている生徒だということを、家庭訪問で知ることができた。学校での行動が目立つ生徒が、家庭訪問でその原因を見つけることは多々あるが、今回のように家庭訪問して初めて、Bの不安な気持ちに気付くことができるケースもあると実感した。

個人面談は基本的に1年間に3回、学期が変わったすぐ後に行い、家庭訪問は5月～6月にかけて1回行った。しかし、生徒の様子を見てする必要があるれば随時面談をした。また3日連続で休んだ際には、必ず家庭訪問を行った。迅速に対応することで、事態が深刻化することを防ぐためである。実際にこういった対応を行うことで、解決策を保護者や生徒と共に探ったり、学校から外部機関に繋げる機会を提供できたりと、あらゆる選択肢をもつことができた。

### ②不登校生徒への対応

不登校の状況であっても、少なくとも週に1回は家庭訪問を行った。保護者や生徒が、学校と繋がりやすい状況を作っていることで、生徒にどんなに小さな心の変化が起きたときでも、遠慮なく頼ってもらえるため、対応がしやすいと考えたからだ。生徒の困り感や学校に通わなくなった原因に触れ、生徒の自立に繋げた例を2つ挙げる。

### 【生徒事例3】 就職後は1日も休むことがなくなった元・不登校生徒C

中学校の欠席数が120日、1学年のときの欠席数が50日を超えていたCは、2学年

でも欠席数が重なり、卒業が危ぶまれる生徒の 1 人だった。欠席理由は 1 つではないが、家族の面倒を見るために学校を欠席することが多かった。C は「恩返しをしたい思いから介護職に就きたい」と話していた。成績のこともあって、何度も面談を行っていた。状況の深刻さを理解はできているが、学校を休むことへの抵抗感が薄れている状態であった。そこで、冬休みに LHR の補習(\*1)で 3 冊の本を読む課題を行った。「少子高齢化社会」(文研出版)、「下流老人～一億総老後崩壊の衝撃～」(朝日新書)、「3 週間続ければ一生が変わる」(海竜社)と、介護職に纏わる本と習慣に関する本である。それぞれに、自分の考えを記述する課題を与えた。以下は、C が実際に書いてきた作文の一部である。

「本には、“困難だから、やろうとしないのではない。やろうとしないから、困難なのだ”とあった。確かに始める前から困難だと決めつけていても意味はないと思う。私はやる前から“どうせだめだろう”と決めつけてしまうクセがあるから、これまですごくもったいないことをしてきたなと思いました。」

最後に書いてきた作文には、夢も併せて書いてあった。C は就職してから 1 年以上経つが、1 日も休まずに働いている。

#### 【生徒事例 4】「生きる意味って何ですか？」自殺願望の強い生徒 D

1 年生の 1 学期で欠席数は 6 日。D は成績も学年上位で勉強に困る様子はなかった。しかし夏休み明けの 9 月より欠席が続いた。夏休み中には部活動に来ることもあったが、出席率は高くなかった。家庭訪問をすると、最初は顔を見せてくれていたが、次第に部屋から出てこなくなった。家庭訪問しても、母親と話すだけの日々が続いた。D は「買ってきたものしか食べられない」と言い、手料理には口をつけず、お風呂にもしばらく入っていない状況だった。

そんなとき母親から、今朝 D が父親と揉めたとき、D から「自分には自殺願望がある」と聞いたと、慌てて電話があった。家庭訪問すると、揉めた一部始終を話してくれた。さらに、別日に掃除中、自殺マニュアルの本と道具を発見したことも話してくれた。この日は珍しく、部屋から出ていたので、顔は見せないけれど私の話を聞ける状況にあった。「生きる意味ってなんですか」と久しぶりに D の声を聞いた。「人はどうせ死ぬのに、なぜ生きているのかわからない。働くとか、将来のことを考えても意味がない。」とのことだった。私は、先生という立場を超えて本音で“私の”生きる意味を伝えた。この時、D から返答はなかった。

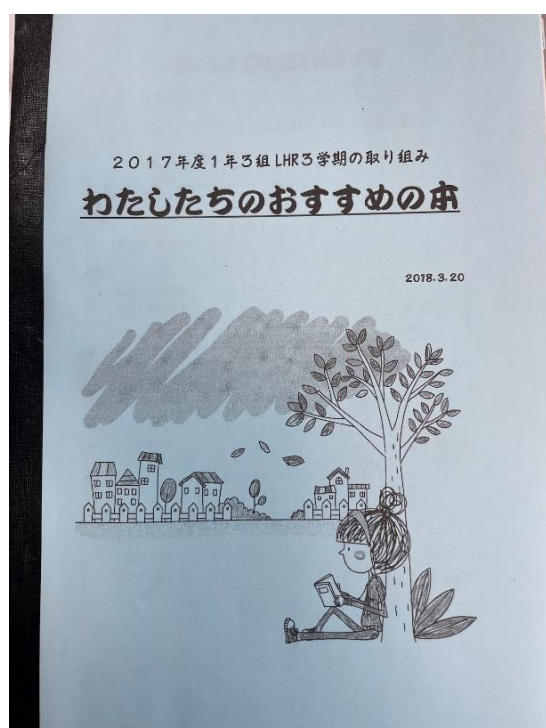
まもなく、D は通信制の学校に転学することになった。D 本人の意志である。そして、飲食店で働き始めたと、喜びの電話が母親からあった。D は、ひとまず“生きる”を続けることで、自分の生きる意味を探し始めたようだった。

このように不登校の状況から卒業に至った生徒や、自殺願望をもつ生徒が社会復帰に繋ったケースは、家庭訪問で保護者から逐一、生徒の様子等の情報共有を行い、迅速に対応できたことが大きい。「学校」という社会と家庭を常に連携させておくことで、対応の幅は確実に広がる。選択肢を広げることが、我々にできる大きな可能性だと感じる。

### ③ 本を読む活動を取り入れる

「子どもたちに常に読書をさせていく必要があります。読書をすることは、新しい知識が入ってくることだけがメリットではありません。文章の書かれ方から論理的な書き方を学べます。文章の流れから説得力のある話の持って生き方を学べます。巧みな情景描写から感性を磨けます。文体が人を表すことを知ることができます。」（森川正樹）

生徒に、卒業後もいつでも学ぶことができると知ってもらうきっかけに、読書推進活動を LHR で取り入れようと考えた。3 学期に、3 時間ほどの LHR を使って、一人 1 ページ「私の本の紹介」を作成し、製本した。以下は実際の紹介文である。



私の本の紹介		
テーマは...	現在のこと	将来のこと
書名 (本の名前)	ソロモンの偽証	
著者 (本を書いた人)	宮部 みゆき	
出版社 (本を出した会社)	新潮文庫	
なんでこの本を選んだの？	実字版が映画で公開された。中学の時に借りて読んだことがある本なので選びました。最初、この本を読んだとき、その本の世界観に引き込まれ、魅力を感じたので、紹介しようと思いました。	
どんな本でしたか？	とてもミステリーの本でした。転落死した男子生徒の不可解な死を巡る捜査に当たる学校内裁判で明らかになっていく事件の真相に気がなる本でした。前編、後編があるので全編を通じ見て読んでも面白いと思います。	
紹介者よりコメント！ 感想！	この本は、その本の世界観に引き込まれるくらい、見ている面白さな作品だと思います。物語が進むにつれ、明らかになっていく事件の真相に気がなると思います。知らない、見たことない人は、一緒に推理する感じが楽しいと思います。	



**私の本の紹介**

テーマは…	現在のこと	将来のこと
書名 (本の名前)	陸 王	
著書 (本を書いた人)	池井戸 潤	
出版社 (本を出した会社)	集英社	
なんでこの本を選んだの？	テレビで放送されていて、それを見てすごくおもしろくて興味を持ったのでぜひみんなにも読んでほしいと思ったから選びました。	
どんな本でしたか？	従業員20名しかない企業がいくつものランニングシューズを開発する話。何度も失敗したけど、裸足感覚のランニングシューズが完成してみんなが喜びあった。	
紹介者よりコメント！感想！	従業員20人でランニングシューズを何個も開発できるのはすごいと思ったし、失敗を何度も繰り返しても諦めない、そこもすごいと思った。そのシューズを履いて大会で優秀な成績を残したこともすごいと思った。	

**私の本の紹介**

テーマは…	現在のこと	将来のこと
書名 (本の名前)	GJ部	
著書 (本を書いた人)	新木伸	
出版社 (本を出した会社)	小学館	
なんでこの本を選んだの？	自分はアニメが好きです。その中でも日常系と学校物語系が好きなのでこの2つのジャンルが入。ていそうだったのがこの本だったので、この本を選びました。	
どんな本でしたか？	この本は高校の部活動の話です。何をやる部活かと言うと、「1人1人が好きなことをやる部活」です。四ノ宮京夜という少年が他の部員達に色々教わられていくような感じのお話です。	
紹介者よりコメント！感想！	この本は日常系で1冊の小説の中にたくさん話が入っています。それぞれで話が終わるので、欠けて読みやすかったです。あまり知られていない作品ですが、すごく楽しめるので読んでみてください。	

読書のメリットだけではなく、1年次から図書館という場所を知っておくことで、読書が自分の疑問を解決する方法の選択肢になる可能性を感じた。また、新たな居場所づくりにもなると実感した。

#### ④人権学習

人権学習を、学校で定められた時間外にも積極的に行った。なぜならば、人権学習には「自分自身に向き合う」「他者に向き合う」「自分の考えを適切な言葉で表現するトレーニング」等、様々な“生きる力”の要素を育むことができると考えるからだ。実施内容や教材は、以下の三重県教育委員会で作成された人権冊子を元に作成したプリントや、学生時代にボランティアで身に付けた「構成的グループエンカウンター」のアイデア、特別支援学校教諭免許状を取得する際に学んだ内容を中心に取り入れた。





回数を重ねるごとに、生徒の文章力や表現力の向上が見られた。また、クラスメートと話し合う習慣をつけることで、クラスの雰囲気は非常に良くなったと感じる。ここで、実際に LHR で活用したプリントの事例を報告したい。

### 【事例 1】自己紹介ビンゴ

目的：4月のクラスづくり、仲間づくり

活動内容：自己紹介プリントを用いて、全員が一斉に、隣の人から自己紹介を始め、その後は目が合った人と次々に質問しあっていく活動。ビンゴを多く作ることを目標にするよう生徒に伝える。

4月の最初のLHRのときに使用する。クラス全体が緊張と不安で一杯である4月最初のLHRでは、自己紹介やバースデーライン(\*2)を行って打ち解ける機会を作るのだが、知らない人が多い状態でクラス全体に対して話すことが苦手な生徒もいるだろう。そのような生徒のハードルを下げたいという思いから作成した。ビンゴというゲーム性が、自己紹介に楽しさを付加してくれる。質問は、内容によって生徒が劣等感を感じたり、悲しい思いをしたりすることがないように注意して作成した。具体的に述べると、「お母さんが」と書くと、母親がいない生徒が答えにくく、「朝ごはんは何を食べたか」と書くと、事情があって食べられなかった生徒が答えにくい可能性がある。担任するクラスの生徒について、中学校からの情報や以前のクラス担任からの情報を確認したうえで作成する。

1年3組 仲間作りシート			
ルール→一度ベアになった人には、枠が埋まるまで質問する！1人につき一枠。			
ペットを飼っている 名前( )	兄弟か姉妹がいる 名前( )	誕生日は春！ (3月～5月だ。) 名前( )	先生の名前、もう覚えた！ 名前( )
血液型は、ズバリの型！ 名前( )	中学校は、松阪市です。 名前( )	マラソンより、短距離 が得意。 名前( )	ドラクエで遊んだことがある 名前( )
得意科目は体育だ！ 名前( )	高いところが怖い！ 高所恐怖症。 名前( )	実は、まだ緊張している。 名前( )	入部したい部活がある♪ 名前( )
チョコレートよりも ポテチが好き。 名前( )	昨日の夜ご飯には「米」 があった。 名前( )	今年度の目標がある！ 名前( )	遠足はスペイン村。 絶叫系は得意です！ 名前( )
自分の名前☆( )			

毎年非常に盛り上がり、一気にクラスが打ち解ける活動だと感じている。

### 【事例2】「自分のことを伝える」

目的：自分に関することを考える機会とする。また、自分の考えや情報を他者に伝えることができるようになる。

活動内容：「私は」から始まる文章で、友だちにあまり伝えていないことを、可能な範囲で書き出し、いくつかをペアで共有する。

人権教材を参考に作成したプリントを用いるワークである。「私は…」と伝える 10 の言葉で自分のことを書いてみよう」というもの。「今回は書く練習でもある」ことを伝え、できるだけ多く自分のことを考えて言葉にするよう呼び掛ける。初めに先生の例を見せるが、ポジティブな表現（「〇〇が好き」等）を心掛けた。自分にきちんと向き合い、考えることが目的であるので、数が少ないからダメ、ネガティブな表現だからダメというわけではない。また、この活動を通して、生徒の意外な一面を知るだけでなく、無意識に発するサインや困り感に気付くことができる。

以下に、実際に取り組んだプリントを掲載する。

**ワークシート1 自分のことを伝える**

1 「私は…」と伝える 10 の言葉で、自分のことを書いてみよう。

①	私は（ 顔が 好きです ）。
②	私は（ 音楽室に入っていて フルートを吹いている ）。
③	私は（ お菓子を作るの が 好きです ）。
④	私は（ お菓子を 食べる の が 好きです ）。
⑤	私は（ 家族 同 行 会 に 入 っ て い ます ）。
⑥	私は（ 音楽 が 好きです ）。
⑦	私は（ 聖歌 が 好きです ）。
⑧	私は（ 寝る の が 好きです ）。
⑨	私は（ みねふくしや物 が 好きです ）。
⑩	私は（ 空を見るの が 好きです ）。

⑤個書けた人・・・なかなか書けましたね。もっと違うジャンルも考えてみよう。

⑧個書けた人・・・ここからが難しい。ひねり出して考えよう！

⑩個書けた人・・・素晴らしい！自己アピール完璧です。

**ワークシート1 自分のことを伝える**

1 「私は…」と伝える 10 の言葉で、自分のことを書いてみよう。

①	私は（ ボンベア です ）。
②	私は（ 吹奏楽部でトロンボーンとドラムを演奏する ）。
③	私は（ 稲穂の龜山君と神戸君と石原さんと伊藤さんと石川さんと三浦さんが好きです ）。
④	私は（ マンガが好きです ）。
⑤	私は（ 紙兎ロペが好きです ）。
⑥	私は（ ひなこーが好きです ）。
⑦	私は（ 紅茶が好きです ）。
⑧	私は（ おしとろ所喜劇が好き ）。
⑨	私は（ 冬が好きです。雪中空が いい ）。
⑩	私は（ 絵画が好きです ）。

⑤個書けた人・・・なかなか書けましたね。もっと違うジャンルも考えてみよう。

⑧個書けた人・・・ここからが難しい。ひねり出して考えよう！

⑩個書けた人・・・素晴らしい！自己アピール完璧です。

### 【事例3】「これっていいじめ？」

目的：一人ひとりが相手の気持ちを考えたり、気付いたりするきっかけとする。

活動内容：プリントにある3つの質問ごとに、個人ワークやグループ共有、クラス共有する。

人権教材を元に作成した。以下は、実際に使用したプリントである。

LHRワークシート

月 日 曜日 名前

テーマ これって「いじめ」？

質問 (1) 次のようなことをされたら、どう思う？

① 冗談のつもりだと思っけど、よくからかわれる。いじられる。

イヤじゃない ・ ちょっとイヤ ・ イヤ ・ すごくイヤ

② ドッチボールをしているとき、肩ばかりねらわれるような気がする。

イヤじゃない ・ ちょっとイヤ ・ イヤ ・ すごくイヤ

③ ゲームやマンガなどを貸すと、なかなか返してもらえない。

イヤじゃない ・ ちょっとイヤ ・ イヤ ・ すごくイヤ

④ 冗談ばかりで、肩をたたかれたり、頭をこぶかれたりする。

イヤじゃない ・ ちょっとイヤ ・ イヤ ・ すごくイヤ

⑤ 「プロレスしよう」と言って、ほぼ一方的にたたかれたり、けられたりする。

イヤじゃない ・ ちょっとイヤ ・ イヤ ・ すごくイヤ

⑥ 写真撮影されて、SNS (ツイッターなど) に勝手にあげられる。

イヤじゃない ・ ちょっとイヤ ・ イヤ ・ すごくイヤ

質問 (2) グループで話そう。

① 「すごくイヤ」が多かったのは、どんなことですか？

② いちばん「すごくイヤ」と「イヤじゃない」が割れたのは、どんなことでしたか？

質問 (3) 次の質問に答えよう。

① あなたはこれまでに、「いじめられる側も悪い」という意見を聞いたことがありますか？

ある ・ ない

② その意見を聞いたとき、どう思った？

それとありだ ・ それは違う ・ どちらともいえない、聞いたことがない

「抵抗しないから悪いんだ」「周りをイライラさせているのがいけないんだ」「本人に責任があるんだ」・・・この手の発言って、そもそも間違っているし、加害者 (いじめた人) のためになっていて、むしろ有害なんだ。これは「理由」と「責任」とをめちゃまぜにしている。・・・たとえばいじめられている人に「理由」があったとしても、それはその人が「悪い」責任があるということにはならない。そもそも、どんなに「理由」があってもいじめを正当化することはできないんだ。「いじめられる側も悪い」ってのは、いじめをしている状況について、イワケするためにしか役に立たない、つまらない言葉なんだ。

☆ 国が定めるいじめの定義

いじめは「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」と定義されている。(2006 文部科学省)ワークでは、やる側が冗談や遊びのつもりであっても、された人が心身の苦痛を感じていたらいじめであるということを改めて伝え、それぞれが自分の行動を振り返った。

このワークにはケーススタディが含まれているため、友人と相談しながら行動を客観的に判断することができる。また、最後に口頭でいじめを苦に自殺した 14 歳の少年の遺書を読んでいる。いじめは小さなことから、どんどんエスカレートしていく危険性があることを伝え、また他人事と捉えている生徒に、人の命を奪う可能性のある行為であることを感じてもらうためである。

#### 【事例 4】「自分を教えて、友達を知ろう」

目的：席替えで隣の席となった生徒のことを知るきっかけとする。先に LHR 等で隣の席の生徒と話をしておくことで、授業等でのペアワークをスムーズに行う。

活動内容：席替え後にプリントを配り、自分のプロフィール部分を各自記入。その後、ペアワークで隣の人のプロフィール部分を埋める。右側のページには「最近の悩みや考え中のこと、好きなものについて記入」する欄があるので、再び各自記入して、その後回収する。

自作プリントである。周りの人に興味関心をもつことや、これまで接したことのない人と関わることは、社会に出ると必要なスキルとなる。いつも話している狭いコミュニティだけではなく、様々な人と話すことで、さらに多くの居場所づくりにもなると考えている。

### 【事例5】「私ってどんな人？」

目的：3 学年次就職や入学試験の面接で自己アピールするための言葉を知っておく。また、ネガティブに捉えている可能性のある性質を、ポジティブに変換できることを知り、自分の良さを再発見し、自己肯定感を高める。

活動内容：自分を形容すると考えられる言葉を複数個選び、次に隣の人に対して同じことを行う。ペアワークにて、お互いの印象を教え合うことで、自分にはどんな良いところがあるか再発見をする。最後に、ジョハリの窓(\*2)を紹介し、本日の気づきを記入する。

ワークシート

足 田 博 司 先生

テーマ 私ってどんな人？

自分（旅の人）が当てはまると思うものに○をつけよう！

印象 / ○○さんから見た私	自分	さん
1. 明るい		
2. 元気な		
3. 振りになる		
4. 礼儀正しい		
5. おとなしい		
6. 穏やかな		
7. 慎重である		
8. やさしい		
9. かわいらしい		
10. おもしろい		
11. リーダー的な存在である		
12. モテる		
13. 友人が多い		
14. 勉強ができる		

15. 親切な		
16. 周りが明るくなる		
17. ほっとしている		
18. ざわやかな		
19. 兄（姉）のような		
20. 弟（妹）のような		
21. まぶしい		
22. 活発な		
23. 行動的な		
24. 約束を守る		
25. 好奇心が強い		

自作プリントである。【事例1】を受けて、自身の長所に気付かず、文章として書けない生徒が存在することに気付き作成した。こういったワークを早い段階で行っておくことで、面接時に、自己アピールを自分の言葉で伝えることができると考えている。

### 【事例6】「友だちの気持ちを考える」

目的：自分の行動を振り返って、他人の気持ちに配慮した言動ができているかを考える。

活動内容：3つの質問に個人で取り組む。1問目

は「自分がしていること」、2問目は同様の質問で、自分に対して周囲の人にされたらどう感じるかを「いいよ」「いやだ」の2択で答える。3問目はクラスのためにどんな行動が自分はできているかを、「ある」「ない」の2択で答えて振り返るというもの。

( ) の窓

<p>開かれた窓</p> <p>自分 ( )</p> <p>他人 ( )</p>	<p>気づかない窓</p> <p>自分 ( )</p> <p>他人 ( )</p>
<p>かくされた窓</p> <p>自分 ( )</p> <p>他人 ( )</p>	<p>未知の窓</p> <p>自分 ( )</p> <p>他人 ( )</p>

今日知った、「新しい自分」はどんな自分ですか？書いてみよう。

「自分がされて嫌なことは他人も嫌、自分がされても良いと感じることでも、相手は嫌かもしれない」と考える気持ちを育てるワークである。「みんなが」「あの子が」と誰かにベクトルを向ける前に、自分にベクトルを向けてから、一人ひとりが行動を見つめ直してほしいと感じ、作成した。禁止されるからしない、のではなく、相手が嫌だと感じる行動を自分がとっているかもしれない、と気づき、行動に繋げるきっかけとした。

### ＊ 友達の気持ちを考える ＊

1年3組 豊 友樹

クラスは一人の部屋ではありません。3組の生徒がみんなでお部屋です。

ときには「あの子と合わない」「あの子が苦手」と思うこともあると思います。

もしかしたら、自分が悪われてしまうこともあるかもしれない。でもね。

それは人がたくさん集まれば、仕方がないこと。

○ 自分のごと

自分は、次の8個のことをしてしまいますか？

(1) 人のうわさ話や悪口を言ってしまう。	( はい ・ いいえ )
(2) 人に対して、モノを投げている。(消しゴムやペンなども含む)	( はい ・ いいえ )
(3) 人に対して、わざとぶつかったり、足をひっかけたりする。	( はい ・ いいえ )
(4) 人を殴ったり、蹴ったりしてしまう。	( はい ・ いいえ )
(5) 人のものを勝手に借りたり、人のお菓子・ごはんを食べたりする。	( はい ・ いいえ )
(6) 人が一度「やめて」と言ったことをしつこく聞いたり、言ったり、触ったりする。	( はい ・ いいえ )
(7) ごみをゴミ箱に捨てて捨てている。	( はい ・ いいえ )
(8) ごみをその場に置っぱなしにしている。	( はい ・ いいえ )

○ みんなのごと

自分がまわりのお友達にされたら・・・どう思いますか？

(1) 自分のうわさ話や悪口を言われたら・・・	( いいよ ・ いやだ )
(2) 自分に対して、モノを投げられたら・・・	( いいよ ・ いやだ )
(3) 自分に対して、わざとぶつかってきたり、足をひっかけられたら・・・	( いいよ ・ いやだ )
(4) 自分が殴られたり、蹴られたりしてしまう。	( いいよ ・ いやだ )
(5) 自分のものを勝手に借りたり、自分のお菓子・ごはんを食べられたりする。	( いいよ ・ いやだ )
(6) 自分が一度「やめて」と言ったことをしつこく聞かれたり、言われたり、触られたりする。	( いいよ ・ いやだ )
(7) ごみをゴミ箱に捨てて捨てている人がある。	( いいよ ・ いやだ )
(8) ごみをその場に置っぱなしにしている人がある。	( いいよ ・ いやだ )

自分が「いいよ」でも相手は「いやだ」ということがあります。

○ クラスのために・・・

(あ) 先生やクラスメートに自分からあいさつする	( ある ・ ない )
(い) ごみが落ちていたら、さりげなく片づける	( ある ・ ない )
(う) プリントやノートなどの配付・回収を手伝う	( ある ・ ない )
(え) 理科の実験や体育の時間に、積極的な準備や片付けをする	( ある ・ ない )
(お) 欠席した人に、連絡事項を伝えたり、授業のノートを貸したりする	( ある ・ ない )
(か) 気分の悪そうな人やケガをした人に声をかけたり手助けしたりする	( ある ・ ない )

いじめとは？

！ 反省です！

指導方法としては・・・

「謹慎」や「迷惑行為」になることもあります。

だからしない！のではなく、「罰則のある行為」「命を奪うかもしれない行為」であることを忘れないでね。

### ＊ 友達の気持ちを考える ＊

1年3組 豊 友樹

クラスは一人の部屋ではありません。3組の生徒がみんなでお部屋です。

ときには「あの子と合わない」「あの子が苦手」と思うこともあると思います。

もしかしたら、自分が悪われてしまうこともあるかもしれない。でもね。

それは人がたくさん集まれば、仕方がないこと。

○ 自分のごと

自分は、次の8個のことをしてしまいますか？

(1) 人のうわさ話や悪口を言ってしまう。	( はい ・ いいえ )
(2) 人に対して、モノを投げている。(消しゴムやペンなども含む)	( はい ・ いいえ )
(3) 人に対して、わざとぶつかったり、足をひっかけたりする。	( はい ・ いいえ )
(4) 人を殴ったり、蹴ったりしてしまう。	( はい ・ いいえ )
(5) 人のものを勝手に借りたり、人のお菓子・ごはんを食べたりする。	( はい ・ いいえ )
(6) 人が一度「やめて」と言ったことをしつこく聞いたり、言ったり、触ったりする。	( はい ・ いいえ )
(7) ごみをゴミ箱に捨てて捨てている。	( はい ・ いいえ )
(8) ごみをその場に置っぱなしにしている。	( はい ・ いいえ )

○ みんなのごと

自分がまわりのお友達にされたら・・・どう思いますか？

(1) 自分のうわさ話や悪口を言われたら・・・	( いいよ ・ いやだ )
(2) 自分に対して、モノを投げられたら・・・	( いいよ ・ いやだ )
(3) 自分に対して、わざとぶつかってきたり、足をひっかけられたら・・・	( いいよ ・ いやだ )
(4) 自分が殴られたり、蹴られたりしてしまう。	( いいよ ・ いやだ )
(5) 自分のものを勝手に借りたり、自分のお菓子・ごはんを食べられたりする。	( いいよ ・ いやだ )
(6) 自分が一度「やめて」と言ったことをしつこく聞かれたり、言われたり、触られたりする。	( いいよ ・ いやだ )
(7) ごみをゴミ箱に捨てて捨てている人がある。	( いいよ ・ いやだ )
(8) ごみをその場に置っぱなしにしている人がある。	( いいよ ・ いやだ )

自分が「いいよ」でも相手は「いやだ」ということがあります。

○ クラスのために・・・

(あ) 先生やクラスメートに自分からあいさつする	( ある ・ ない )
(い) ごみが落ちていたら、さりげなく片づける	( ある ・ ない )
(う) プリントやノートなどの配付・回収を手伝う	( ある ・ ない )
(え) 理科の実験や体育の時間に、積極的な準備や片付けをする	( ある ・ ない )
(お) 欠席した人に、連絡事項を伝えたり、授業のノートを貸したりする	( ある ・ ない )
(か) 気分の悪そうな人やケガをした人に声をかけたり手助けしたりする	( ある ・ ない )

いじめとは？

！ 反省です！

指導方法としては・・・

「謹慎」や「迷惑行為」になることもあります。

だからしない！のではなく、「罰則のある行為」「命を奪うかもしれない行為」であることを忘れないでね。

LHR は心の成長を促す機会であり、社会において必須である他者との関わり方を学ぶ場でもあると考えている。

“「トラブルがあった時、その都度指導している」だけでは、社会面の支援は偶然に必要性があって生じた程度に過ぎません。つまり、今の学校教育には系統だった社会面への教育というものが全くないのです。これは大きな問題です。社会面の支援とは、対人スキルの方法、感情コントロール、対人マナー、問題解決力といった、社会で生きていく上でどれも欠かせない能力を身につけさせることです。これらのどれ一つでも出来ていなければ、社会ではうまく生活していけないでしょう。”（宮口幸治）

学校教育の限られた時間内に、人権学習を通した「社会面の支援」を行うことが「日常的キャリア教育」にも繋がると考えている。



## 5. おわりに

コロナ禍において、ICT 化が進み、生徒は休校中に在宅で授業を受けることとなった。教育の企業による授業動画やアプリケーションも増加し、この機会に私は、教師や学校の存在意義について、長い時間考えた。そして、多様な学び方や多くの教材、授業方法がある一方で、目の前の生徒に最適な学習内容を提供するのは、教師である自分の義務ではないかという結論に辿り着いた。

例えば、プリント 1 枚にしても、多くの教材を探した結果、「前回の授業、前々回の授業と今回の内容を網羅し、かつ扱う例題と数字を変えただけの類題を入れて 10 分目安で終わるプリント」を作成することは、この講座を担当している私にしかできない。また、学習内容の理解を 0 から 1、または 1 から 2 にすることは一方的な教材にはできない。

なぜなら、0 を「単に知識がない」のか「もっと根本的な所から疑問を持っているから、そもそも 1 にならない状況である」のかは現場でしか見極められないからだ。「1 って何で 1 なん？」というのは実際に受けた質問であるが、教科書の例題から、そんな疑問が飛んでくると、誰が想定できただろうか。こうした素直でふとした疑問を言葉として発し、それに対して流さず対応することは、現場でしか生まれないのではないか。私は彼らが、そんな素直な疑問や関心を持って数学に臨んでくれることを嬉しく思うと同時に、それを育てることが教師としての自身の存在意義なのだと信じたい。

また、学校とは自立を促すところ、自立を学ぶところでもあると私は考える。そういった意味で、私は生徒を半分大人として対応する。卒業後にすぐ社会に出る生徒も多い。万が一間違いを犯したとき、高校 3 年間は「校則」で取り締まることができるが、社会に出たとき取り締まられるのは「法律」である。高校生活は、他人の大人から直接的に自立を学ぶ、最後の機会である。

また、どんなに技術が進化しても、最終的には人が人のために仕事をしているのだ。画面の向こうに人がいることもあるのだ。その想像力や人間関係、コミュニケーションの術を、学校という小社会でまず学ぶのだろう。これが、私の考える学校の存在意義だった。

そんな学校において、子どもたちが幸せに逞しく生きるためのサポートと挑戦を、これからも続けたいと考えている。

(※1) LHR の補習 LHR は年間 1 単位 35 回分行うが、一定数を超えて欠席すると、他教科でいう「未履修」の状態となる。しかし LHR を未履修にすることはできないため、欠席過多の生徒に対しては、必要最低限の補習を行う義務がある。

(※2) バースデーライン 一言も話さずに、クラス全員が誕生日順に並ぶというもの。

成功すると、アイデアを出せば言葉を発さずとも（制限されることがあっても）物事は達成できるという学びがあり、失敗しても、言葉のありがたさや大切さを学ぶことができる活動である。

(\*3) ジョハリの窓 自己分析に使用する心理学モデルの 1 つ。「開放」自分も他人も知っている性質、「盲点」自分は知らないが他人が知っている性質、「秘密」自分は知っているが他人は知らない性質、「未知」自分も他人も知らない性質の 4 つに区分して自己を理解する。自己開発に有用とされている。

#### 引用文献

- ・ 菊池高弘：下克上球児、P. 96, 97、株式会社カンゼン、2019
- ・ 小山英樹・峯下隆志・鈴木建生：この一冊でわかる！アクティブラーニング、P. 32, 141、PHP 研究所、2016
- ・ 森川正樹：教師力を鍛える 77 の習慣、P. 185、明治図書、2017
- ・ 清水美憲：授業を科学する 数学授業への新しいアプローチ、P. 158、東京学芸大学・藤井斉亮、学文社、2010
- ・ 宮口幸治：ケーキの切れない非行少年たち、P. 127、新潮新書、2019
- ・ 三重県教育委員会：気づく つながる つくりだす、P. 43、2012
- ・ 三重県教育委員会：ともに つくる あした、P. 25～28, 44、2013
- ・ 三重の教育によるネットで研修「〇つけ法と復習法で授業が変わる・子どもが変わる」  
愛知教育大学 志水 廣
- ・ 三重の教育によるネットで研修「魅力ある授業実践」木下 晴弘
- ・ 文部科学省「令和 2 年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」「いじめの定義」